

みどうだに 御堂谷遺跡発掘調査

～大田市域最大級の集落を発見～

2017年10月28日(土) 午前10時～12時

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

1. はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省から委託を受け、大田静間道路予定地内にある御堂谷遺跡(大田市長久町・鳥井町)の発掘調査を実施しています。御堂谷遺跡は大田市北部の鳥井丘陵中腹に所在する集落遺跡です。今回の調査では、弥生時代、古墳時代、奈良～平安時代の竪穴建物や多くの柱穴が見つかり、大田市域最大級の集落遺跡であったことが判明しました。

2. 調査の成果

(1) 遺構

現在のところ、弥生時代中期(紀元前1世紀頃)の竪穴建物1棟、後期前半頃(1世紀頃)の竪穴建物4棟、古墳時代中期(5世紀前半)の竪穴建物2棟、7世紀末葉の竪穴建物1棟、9世紀代を中心とする古代の掘立柱建物などを確認しています。

(2) 出土遺物

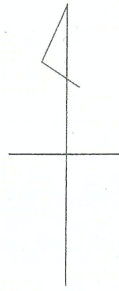
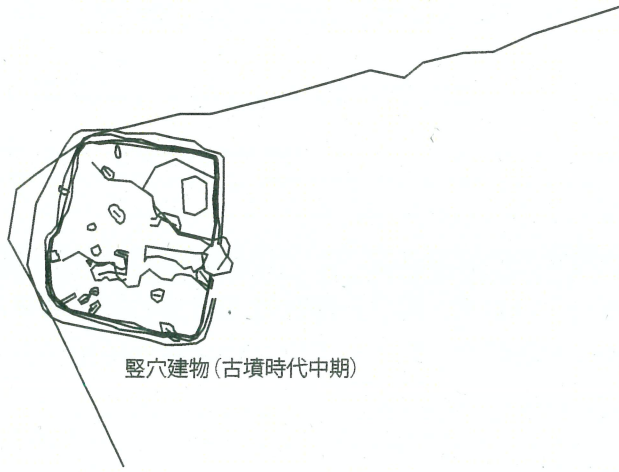
遺跡には上から順に古代、弥生時代後期、弥生時代前期後半(紀元前3～2世紀頃)の土層が堆積していました。古代の層からは須恵器・土師器、弥生時代後期の層から土器や石斧などの石器、弥生時代前期後半の層から土器などが出土しています。また、弥生時代中期の竪穴建物からはガラス小玉が1点、古墳時代中期の竪穴建物からは土製の勾玉が1点出土するなど、県内でも出土数の少ない遺物を発見しました(ガラス小玉出土遺跡としては県内13例目、土製勾玉出土遺跡としては県内7例目)。奈良～平安時代の遺物の中には、灯明皿や朱の付着した皿などがあり、この丘陵上に山寺などの宗教的施設が存在した可能性も考えられます。

3. まとめ

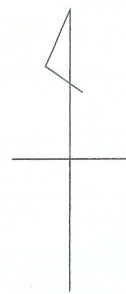
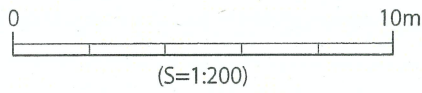
石見地域沿岸部では22例目の弥生集落遺跡です。とくに弥生時代前期に限定すれば、標高約50mという山陰でも数少ない高地に立地しており、周辺集落との関係や日本海側における当時の社会情勢などを考える上で貴重な遺跡です。

また、奈良～平安時代には山寺などの宗教施設があった可能性があり、石見東部の仏教信仰のあり方を考える上でも重要な遺跡です。

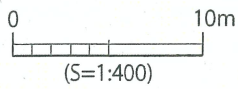




御堂谷遺跡A区 (北西部)



御堂谷遺跡B区



遺構配置図



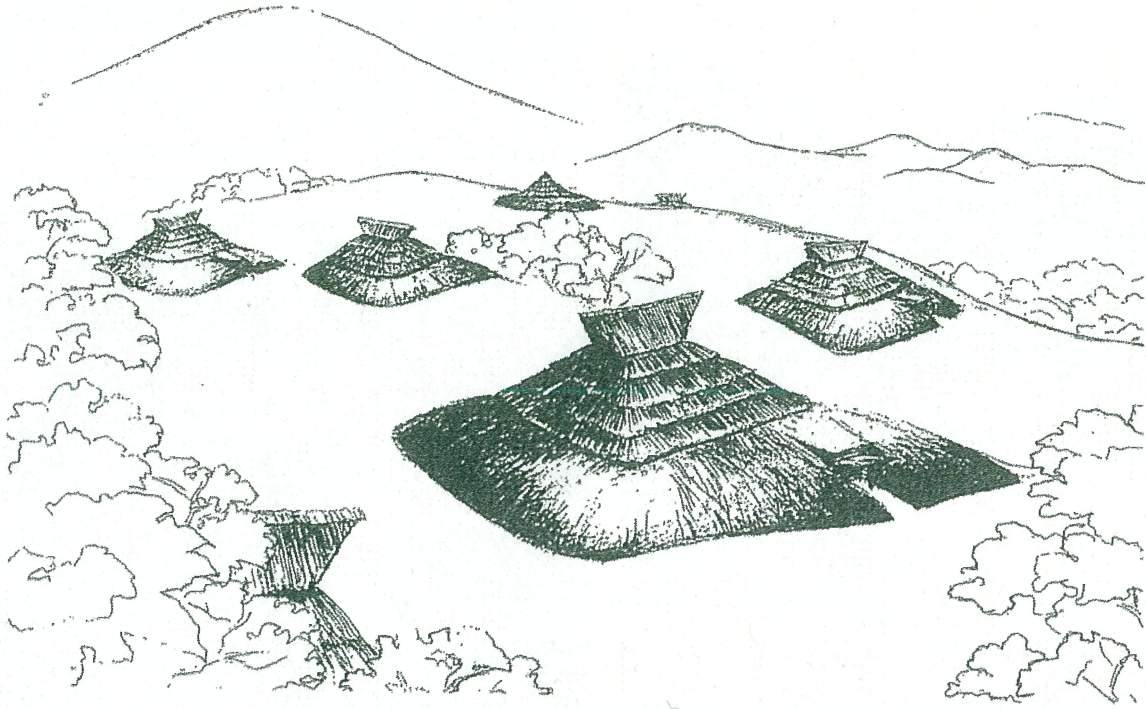
B区【竪穴建物1（弥生時代中期）】



B区【竪穴建物2・3（弥生時代後期）】

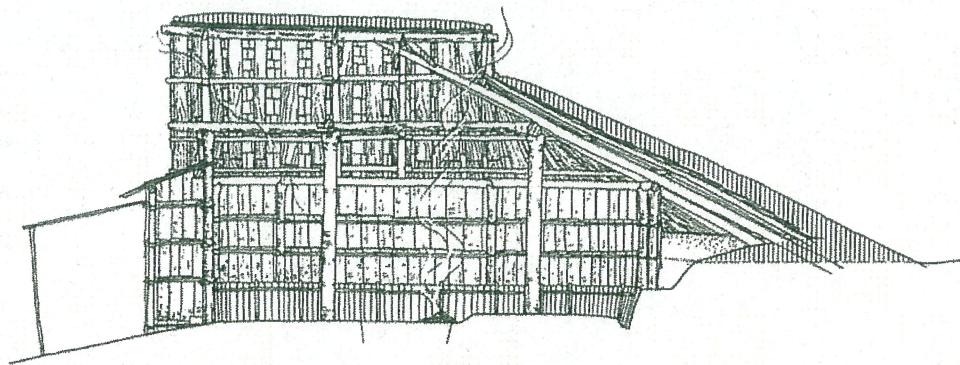
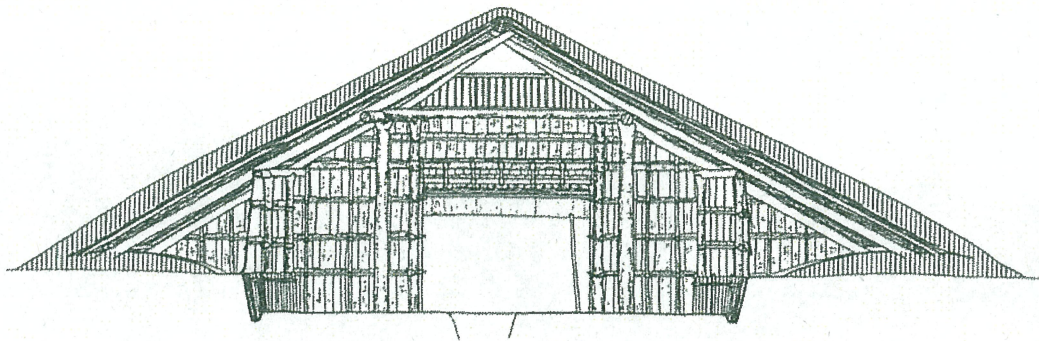


B区【焼失していた竪穴建物4（弥生時代後期）】



【参考】弥生時代の集落（復元図）

浅川滋男 2013『建築考古学の実証と復元研究』同成社から引用



【参考】竪穴建物復元図（弥生時代）

大田市鳥井南遺跡の竪穴建物から復元されたもの。平面形等、御堂谷遺跡の竪穴建物2・4と類似しています。

浅川滋男 2013『建築考古学の実証と復元研究』同成社から引用